

令和 6 年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和 7 年 2 月 6 日

少友幼稚園 園長 吉野悦子

本園の教育目標

キリスト教フレンド派の精神に基づいて教師と園児とその保護者との間の愛と信頼の中で「神と人に対する感謝の心を持つ人」「進んで社会に奉仕する人」「自主的に判断し強い意志と責任感を有する人」「個人の持てる能力を十分に発揮できる人」「協調性のある豊かな人格を有する人」を育成する。

2.本年度重点的に取り組む目標・計画

未就園児親子支援／預かり保育の充実／園庭の整備

3.評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	未就園児親子支援	A	新たな取り組みとして0・1歳児親子向け「コアラくらぶ」を開始した。平均10組の参加があり好評を得た。
2	預かり保育の充実	B	正職を配置し3名体制で行った。
3	園庭の整備	A	砂場が完成し道具が近くにあることから園児の外遊びが充実した。新園舎フレンドハウスの計画を立て2月に起工式を行った。

評価(A十分に成果があった B成果があった C少し成果があった D成果がなかった)

4.総合的な評価結果.

評価	理由
A	今年度は0.1歳児の親子に早くから幼稚園に遊びにきてもらおうと「コアラくらぶ」を開催し多くの方々に参加していただいた。そして新園舎「フレンドハウス」の着工まで計画を進めることができた。これは今後の未就園児親子支援につながる事業となった。

5.今後取り組む課題

1	園児確保 (広報活動の充実)	「コアラくらぶ」→「カンガルーくらぶ」→入園につながるような未就園児親子支援活動の充実。 園の保育内容を広く伝えていく。
2	新園舎「フレンドハウス」建設	園庭の安全性を確保するために保育者を中心に話し合いを重ねていく。
3	保護者支援	ストレッチなど保護者向けのワークショップを行い気軽に集まってコミュニケーションがとれるようにする。
4	園内研修	毎朝の職員の打ち合わせ時に短い時間で静かな祈りの時をもつ。

6.学校関係者評価委員会の評価

今年度の学校関係者評価委員会の中で、とても印象的な言葉が二つありました。一つは「小鳥が集まる園庭」です。まちなかにも関わらず自然に触れ親しむことのできる園庭で遊ぶ子どもたちは、のびのびとした感性を育てることができ、心が豊かに育つことでしょう。ぜひ実現できるよう引き続き計画を進めていただきたいと思います。

もう一つは「コミュニケーション」です。子どもとのコミュニケーションはもちろんですが、保護者支援としてのワークショップや未就園児親子支援などにも取り組んでいる中で、職員間のコミュニケーションが重要になっているようです。今後取り組む課題にも挙げられていましたが、短い時間であっても顔を合わせたコミュニケーションの時間を作り、話し合いの場が増えていくことで、より良い保育につながっていくことを期待します。

学校関係者評価委員 永田 明子

評価委員会の最初に園内をご案内いただき、日頃から職員のみなさまが保育という尊い仕事に真摯に、そして深い愛情をもって取り組まれている姿、また子どもたちが安心してのびのびと過ごしている様子を拝見させていただきました。その後、園長先生と平松様より、今年度の目標・計画の達成と取り組み状況のご報告を受けました。

1、未就園児親子支援につきまして、「コアラくらぶ」が大いにその役割を果たされ、とくに参加された保護者のみなさまにとっては、心の拠り所・支えにさえなっているという印象を受けました。

平均10組の参加があったということで、そのニーズも証明されたと感じます。

2、預かり保育の充実につきましては、正職員を3人体制で配置とのご報告を受けました。

シフトの組み方、職員間の情報共有の仕方などご苦労もあるかと思いますが、わずかでも職員同士で声をかけ合い、それが預かり保育の充実につながればと願います。

3、園庭の整備につきましては、砂場の完成と新園舎「フレンドハウス」の計画が進んでいるとのご報告を受けました。

新園舎は大きな楽しみで、保育の可能性が広がることを期待いたします。

完成した暁には、地域のみなさまや支援者さまへのお披露目をし、長く愛される園舎となることを願います。

今後取り組む課題としまして、入園に至る園児の確保、新園舎建設に伴う園庭での安全確保、保護者とのコミュニケーションの充実、園内研修が挙げられました。

いずれも、要は「人と人とのつながり、信頼」が重要だと感じます。信じて、共有していただきたい。

時代とともに子育て、家族のあり方、働き方などが大きく変化する中で、保育の現場でもさまざまな対応が求められるかと思いますが、市内で圧倒的な歴史を誇る少友幼稚園はいつの時代にもその変化に対応されてきたはずです。

また、いつの時代でも変わらない「保育の真髄」もあるかと思っています。

日々、大変なご苦労があるかと思いますが、保育の喜びと信念を胸に、これからも「なくてはならない園」であって欲しいと願います。

学校関係者評価委員 川崎賢一